

## 学校運営協議会(第1回)議事録

校名	府立交野支援学校
校長名	可知 万千代

開催日時	令和6年7月9日(火) 10:00 ~ 11:45
開催場所	府立交野支援学校 校長室
出席者(委員)	早野 眞美(会長) 八尾 康則(副会長) 古賀 正弘(委員) 山田 末人(委員) 佐藤 春彦(委員) 朝永 陽一郎(委員)
出席者(学校)	可知 万千代(校長) 藤原 健太(教頭) 荻谷 美加(教頭) 與賀田 厚(事務長) 木下 達夫(首席) 木下 昌代(高等部主事) 坂野 理恵(首席・中学部主事) 【欠席】上田 悠司(小学部主事) 相馬 寿子(首席)
傍聴者	なし
協議資料	レジュメ、令和6年度使用教科用図書(選定・採択)一覧表 令和6年度「学校教育自己診断アンケート」、 令和5年度学校経営計画及び学校評価、令和6年度学校経営計画(案)

協議内容・承認事項(説明・意見の概要)
<p>1. 学校見学 参加者がプール学習や授業の様子を視察。</p> <p>2. 学校長あいさつ(可知校長) 新たに3名の学校評議員を迎えた。</p> <p>3. 自己紹介 【会長】早野眞美氏(大阪教育大学特任教授):学校見学の感想や支援教育に携わる教員の育成について。 【副会長】八尾康則氏(交野自立センター所長):自立センターでの取り組みについて。 古賀正弘氏(関西創価中学校校長):子ども同士の直接的な交流の重要性について。 佐藤春彦氏(関西医科大学教授):リハビリテーション学部での活動と支援教育との関わりについて。 山田末人氏(寺区区長):地域での環境整備活動について。 交野支援学校 PTA 会長 朝永陽一郎氏(学校の取り組みについての理解)</p> <p>4. 会長の選出  <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度学校運営協議会会長:早野氏、副会長:八尾氏を承認。</li> </ul> </p> <p>5. 令和5年度・6年度の教科用図書について(藤原教頭)  <ul style="list-style-type: none"> <li>附則第9条本である一般図書などを教科書として採択していることを実物で提示、紹介。</li> </ul> </p> <p>6. 議事  1) 令和6年度経営計画の目標達成に向けた取り組み(可知校長) <ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画に保健室の情報を加えて一元化。</li> <li>避難袋の整理と適時入れ替え。</li> <li>個別の指導計画の3観点別評価とルーブリック評価の導入。</li> <li>小グループ型研究授業の開催による授業見学と協議を行うシステムで指導力向上。</li> <li>自立活動における、PT、OT、STとの連携とSスケールの導入。</li> <li>長期休業中の自己研修推進とPlant(全国教員研修プラットフォーム)の活用。</li> </ul> </p>

【委員からのコメント】

- 昨年度から、交野支援の児童生徒をお招きし、箏曲部の活動を通じて大変有意義な時間を作らせていただいた。交野支援でも様々な音楽活動に取り組んでいるとのことなので、音楽という感性的な部分を利用して、今年度も何かしらの交流ができればと思っている。
- 支援学校の先生は、人生の中で長く子どもと関わっているのもので、子どもたちの姿勢づくりに関して力をいれていると感じている。限られた訓練の時間や病院での時間というのではなく、学校生活の中での長い時間での姿勢ということをしっかり考えていると思う。
- 4年前に、その当時の校長先生からだったと思うが、「野菜の育て方を教えてほしい。」とお話があり、その時の老人会のメンバーで、なすやキュウリ、トマトを植えたのを思い出した。野菜を育てて、みんなで食してというようなことが食育につながるのではと思っている。
- 「働き方改革」が学校経営に影響を与えていると思う。1日の仕事のあり方や休日のあり方などが課題だと感じている。
- 学校生活の中で、日々の様々な取り組みに感謝している。

2) 学校教育自己診断アンケート(木下首席)

- 第三者目線で回答し、数値を確認。改善策は自分事として考察する。
- Google Form を使用し、昨年度は保護者 50%と児童生徒 20名が回答。回答率向上に努める。

【委員からのコメント】

- 組織を自分ごととして捉える視点が大事だと思う。

7. 今後の予定

- 次回会議:12月上旬、第3回は2月中旬予定。

まとめ

本協議会では、3名の新たな委員の参加とともに、学校運営の改善に向けた具体的な議論が行われた。今後も計画的に取り組を進めていく意欲が示され、地域社会との連携や開かれた学校づくり、教員の働き方改革と支援学校教員としての専門性向上などが重点課題として挙げられた。